

クリニックレター 2015.8-9 月

〒663-8113 西宮市甲子園口2-8-31 医療法人岐黄会西本クリニック

TEL:0798-65-5111 FAX:0798-65-5115 HP: <http://www.nishimotoclinic.jp/>

このクリニックレターは、西本クリニックから患者様への情報を、すばやく、わかりやすくお伝えするためのお手紙です。原則月1回の発行で、スタッフが皆さんに知っていただきたい事をビビッドに発信していきます。

OTC 医薬品あれこれ (前半)

OTC という言葉を御存知でしょうか？

以前は「大衆薬」や「市販薬」と言われていた、薬局や薬店で販売される医薬品のことで、Over The Counter すなわち、「カウンター越しに販売される」ことから OTC 医薬品と呼ばれるようになりました。

OTC 医薬品は現在、次のように分類されています。

[A] 要指導医薬品

販売は薬剤師に限られており、販売に先立って書面により使用法・副作用などの説明をすることが義務付けられているもの。医療用医薬品から OTC 医薬品に移行したばかりで安全評価が終わっていない市販薬(スイッチ OTC 薬)と劇薬がある。

[B] 第1類医薬品

副作用、相互作用などの項目で安全性上、特に注意を要するもの。販売は薬剤師に限られており、店舗でも購入者がすぐに手が届かない場所に陳列することとされている。

[C] 第2類医薬品

副作用、相互作用などの項目で安全性上、注意を要するもの。薬剤師による説明は「努力義務」であり、薬剤師以外の登録販売者(薬店など)でも販売できる。

[D] 第3類医薬品

副作用、相互作用などの項目で、第1類医薬品や第2類医薬品に相当するもの以外の一般用医薬品。説明義務はない。薬剤師以外の登録販売者でも販売できる。

このうち、[A]は、発売から間もない消炎鎮痛剤や抗アレルギー剤が該当し、[B]には、よく知られたものとしては、制酸剤のガスター10、鎮痛剤のロキソニンS、発毛促進剤のリアップ、その他、アレルギー性鼻炎に対する点鼻薬やカンジタ性腔炎治療薬などが含まれます。

では、漢方の OTC 薬品は、といいますと、そのほとんどが、[C]の第2種医薬品に分類されており、薬剤師の資格のない登録販売業者も取り扱いが可能です。また、インターネットで購入することもできるのです。

では、漢方薬はそれほどに「安全で」「副作用がなく」

「だれにでも使える」ものなのでしょうか？

答えは「NO」です。

(裏面に続く)



現在 OTC として販売されている漢方薬には、次の2種類のものがあります。すなわち、①製薬会社のオリジナルの処方薬を製品化したもの、と、②従来より医師が取り扱っている医療用漢方処方を OTC 化したもの。です。①のタイプで有名な製品というと、すぐ思い浮かぶのが龍角散®、命の母 A®、養命酒®、救心®、樋屋奇応丸®などですね。どれも、その会社に代々伝わる処方薬で、一般の保険診療では使用できないような生薬を用いているものもあり、なによりも、ロングセラー商品でいられるということは、それなりのファンがいる=それなりの効き目がある、ということであると思います。

例えば、救心の成分は、救心製薬ホームページによると鹿茸(カウゾウ)・鹿の角のまだ骨化していない部分 牛黄(ゴウワウ)・牛の胆石 蟾酥(センソ)・ヒキガエルの分泌物(ガマの油) 羚羊角(レイウカク)・羚羊の角 沈香(シウカウ) 人参(ニンジン) 真珠(シジリ) 竜腦(リウノウ) 動物胆(ドウブツタン) とのことですが、このうち、人参以外は、どれも一般の医療現場で使えるものではなく、独特の立ち位置にある薬、と言えるかも知れません。

(ちなみに、羚羊角や、樋屋奇応丸に含まれる熊胆(クマタン)・麝香(ジャウ)などはワシントン条約*記載品目であり、おそらく条約批准以前から各メーカーに蓄えられたものを使っていると思えます)

また、ちょっと性質は違いますが、「大正漢方胃腸薬」なども、医療用では使えない、安虫散(アンチュウサン)の原末(医療用ではエキス剤)を使っている、非常に切れ味の鋭い薬だな、というイメージがあります。

このように、長年使われている OTC 漢方薬は、保険医療でカバーできない部分を補うという点でも利用価値のあるものが多いかと思えます。

*絶滅の恐れのある野生動植物の種の国際取引に関する条約で日本は1971年に批准。今回は、最近の規制緩和、保険医療費削減、通販業者の利益拡大などにより、危険な OTC 漢方薬が出回っている現実についてお話しします。

土曜日の外来日程変更についてのお知らせ

7月第1週より、土曜日の外来日程を下記のように変更しております。

奇数土曜日(1・3・5週)

1階診察室：西本院長(内科) 9:00~13:30

2階診察室：田川直洋医師(内科・新任) (9:00~12:30)

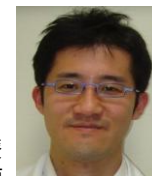
偶数土曜日(2・4週)

1階診察室：西本院長(内科) 9:00~13:30

2階診察室：武内睦子医師(婦人科) (9:00~12:30)

*田川直洋(たがわなおひろ) 医師

2007年 島根大学医学部(旧島根医科大学)卒。その後、神戸市立医療センター西市民病院、市立堺病院、兵庫県立尼崎病院 ER 総合診療科兼漢方内科などを経て、2015年より高雄病院 漢方内科 専門：内科・漢方全般



クリニックレターのバックナンバーをお読みにになりたい方は、クリニックのホームページをご覧ください。